

(第3種郵便物認可)

若者の投票率アップへ

愛知教育大学(刈谷市井ヶ谷町)で2日、若者の投票率アップ策について、学生たちが考えたアイデアの発表会が行われた。「子どもが生まれたら、選挙を題材にした絵本をプレゼントする」「投票所でお祭りを開く」など、若者の視点からユニークな策が披露された。(平沢祐)



若者の投票率アップ策を発表する学生

愛教大で学生がアイデア披露

美術教育の2年生が必修で学ぶ「デザイン」の授業の一環。「デザインは現状を把握し、問題を解決する能力が必要だ」という担当の富山祥瑞教授の考えから、これまでも「スナック菓子の売り上げアップ策」などを題材にしてきた。今期は、政権交代に加え、今夏に予定される参院選に向け、「若者に投票に行ってもらおうにはどうしたらいいか」をテーマにした。

学生31人は昨年9月から7班に分かれて、若者が選挙に行かない原因などを考え、どうしたら若者の投票率を上げられるか、各班で研究し、15回目の最終講義で、研究成果を披露した。

各班からは「選挙に行くメリットが感じられない」「行くのが面倒だ」など、若者の選挙への関心が薄いことが指摘された。

対策として、「献血所のように、菓子などをサービスしたらいいのでは」「投票所でお祭りを開く」など即効策から、「小学校6年間で選挙について教育する」と長い目で若者への参加を促すものまで、様々なアイデアが出された。中には、「大人は投票に行くよ」などと絵本にして、子どもたちに選挙を身近に感じてもらうと、実際に絵本を作った班もあった。

富山教授は「考えるうちに、自分たちで課題を見つけてくれた。学生たちは選挙に関心を持ってくれたと思う」と手応えを感じた様子。学生の長崎由利子さん(20)は「発表前は選挙にあまり興味がなかったが、調べていくうちに選挙が身近に感じられた」と話した。

【掲載後の反省点】

学生プレゼンテーションおよび教員の事後取材対応の反省点として、企画の根幹(戦略)よりも、具体性のある枝葉(戦術)がクローズアップ報道された点が惜しかったと思っています。

